

## 二本松市教育委員会会議録

令和3年6月24日午後3時00分二本松市教育委員会定例会議を二本松市役所教育委員会室に招集した。

○会議に出席した委員は次のとおりである。

教 育 長	丹 野 学
教育長職務代理者	佐 藤 英 之
教 育 委 員	関 奈 央 子
教 育 委 員	関 健 至
教 育 委 員	太 田 左 恵 子

○会議に説明のため出席した職員は次のとおりである。

教 育 部 長	内 藤 徳 夫
教育総務課長	石 井 栄 作
学校教育課長	安 齋 憲 治
生涯学習課長	服 部 憲 夫
文化課長	鈴 木 啓 樹

○教育長（丹野） それでは、ただいまから令和3年二本松市教育委員会6月定例会を開会いたします。

（宣言 午後3時00分）

○教育長（丹野） これより会議に入ります。

委員の出席状況を報告します。

現在の出席者は、5名であります。会議の定足数に達しておりますので、本会議は成立いたしました。

次に、「2 会議日程の決定」ですが、会議が終了するまでといたします。

続きまして「3 会議録署名人の決定」ですが、関奈央子委員と太田左恵子委員の2名を指名いたします。

それでは、「4 前回会議録朗読承認」を事務局よりお願いします。

（事務局より、令和3年5月20日の会議録を朗読）

○教育長（丹野） ただいま事務局より朗読がありましたが、これについて皆様からご質問等ありますか。

（質問等なし）

○教育長（丹野） それでは、ただいまの会議録については、承認することよろしいですか。

（異議なし）

○教育長（丹野） ただいまの会議録については、承認されました。

それでは早速、「5 教育長報告」に移ります。「1 市議会6月定例会の結果について」、事務局よりお願いします。

(事務局より説明)

○**教育長(丹野)** ただいま、議員から質問を受けました内容について、所管課長から内容の概要についてご説明をいたしました。これらの内容について、ご質問等がございましたらお願いします。

○**太田委員** オリンピック関係で、外国人選手の来日も間近に迫っている訳ですが、コロナ等で色々と決め難い状況にもあると思いますが、二本松市としてオリンピックは、教育委員会のオリパラ特命担当係が全てを受け持つことになるのでしょうか。

○**教育部長** オリンピックの担当部署としては、市役所の中では教育委員会が担当でございまして、その中の生涯学習課にオリンピック・パラリンピック特命担当という部署がございまして。ただ、実際その職員数も限られており、今も受け入れ準備が大詰めを迎えており、生涯学習課の職員、そしてこれから選手団を迎えるようになれば、地域公民館の職員にも協力をいただいて、職員を挙げて受け入れを行うこととなります。

○**太田委員** とても大変なことであると思いますが、市としてどんな風におもてなしと言うか、歓迎を計画しているのでしょうか。

○**教育長(丹野)** 太田委員もご存じのとおり、今ですらまだ国の方針が定まっていな部分が多くございます。そんな中で昨日も報道されておりましたが、ウガンダ選手の新型コロナ陽性のお話が出てきて、結局市町村が単独で判断するには余りにも重たすぎるため、そこは慎重にいかねばなりません。

二本松市の場合もデンマークとクウェートのホストタウンになっておりますが、私が教育長として、所管する長として一番感じることは、「万が一にも選手を感染させてはいけない。感染させてしまったら国同士の大きな問題になってしまう。」ということです。ですので、例えば現時点でも宿泊するホテル等についてはワクチン接種を急がせたり、生涯学習課の職員がこの様な厳しい状況の中でもお世話役をしたり、いろいろな対応をしたりすることから事前にPCR検査を受けさせる等、曖昧にせず徹底させないと万が一のときに市長が責任を取るというレベルの話ではなくなってしまいます。そういう意味では、状況を見ながらもデンマークやクウェートの選手の皆さんに迷惑を掛けるような状況は作れないなと思い、細心の注意を払って市長も含めて色々と相談させていただきながら準備を進めているというのが現状です。

○**太田委員** ひとつ提案なのですが、決めようもないですし時間もありませんし、市が全部引き受けるとしても突然作られたオリパラ特命担当係もコロナもあり本当に大変だと思います。もうパニックなのではと察するのですが、でも選手

団が二本松市に来るからには、おもてなしをしなければなりません。それで市が全て責任を持つのではなく、「こんなことをしたい」というビジョンがあったと思いますので、それをどうか企業だとか商工会議所だとか青年会議所だとか、ロータリークラブ、ライオンズクラブ色々とありますので、そういうところとも話をしながら提案をして、協力をもらっていった方が良いのではないかとすごく思うのです。市だけで抱え込まないで、どうか民間の団体にもぜひお声掛けいただければと思います。

○**教育長（丹野）** 本当にその通りだと思います。確かに元々ホストタウンというのは、おもてなしや文化の交流が大前提のはずでありました。しかし現状は残念ながらそういう状況よりは、感染させない、感染しないことの方が優先されていることも事実です。そういう意味では、やはり市としてまず大きな判断を下さなければなりません。つまり、今回に関しては、国や県の指針に基づいて基本的には選手との直接交流はしない、させない。ということです。具体的には市長も一般的には選手を出迎えたり見送ったりするものなのですが、それも今回はやめていただくということです。そんな状況にあることをこれまでも色々と支えてくださった市民団体の皆様にもきちんとして説明をさせていただき、そう言いましても交流が全く駄目だという意味ではなく、オンラインや練習会場を遠くから見守っていただく等、やりようによって方法もいくらかはあるかと思いますが、当初に考えていたやり方は、今は難しいと考えております。よろしいでしょうか。

○**太田委員** はい。

○**佐藤教育長職務代理者** ワクチン接種について、12歳以上に認められると話題になっておりましたが、コロナ禍における誹謗中傷やいじめの問題等を色々と考えてみますと「ワクチンを接種する」、「ワクチン接種をしない」も子どもたちの中では大きな問題になってくると思います。その点も配慮して頭に入れておいていただきたいと思います。

○**教育長（丹野）** ただいま佐藤教育長職務代理者から12歳以上、15歳未満のワクチン接種に関して、やはり慎重に対応すべきではないかとのお話でありましたが、学校教育課長いかがでしょうか。

○**学校教育課長** 12歳以上のワクチン接種につきましては、ただ今検討している最中にはありますが、実際のところ期限が切られた日、つまり12歳になる子は受けられないという状況がありますと同じ学年でも12歳になっている子は受けられて、まだ誕生日が来ない子は受けられないという不公平感は十分考えられると思います。その辺りも含めまして、コロナ禍における誹謗中傷というものに対しましては、第2弾、第3弾の教材を考えており、それを基にしながら差別等をしないように親子で考えていただけるとありがたいと思いますの

で、その辺りを検討してまいります。

○教育長（丹野） 直近ですと6月22日の夜にテレビで放映されましたが、厚生労働省と文部科学省から一緒に話が出され、具体的には、集団接種というのは一言で言うと「望ましいことではない」「リスクが高すぎる」という部分を今、学校教育課長が申し上げたところです。

二本松市としては、当初から「集団接種はあり得ない」、「やはりこれは個別接種だ」というよりもワクチン接種は、保護者の方の責任の下で進めることであって、学校でやってしまうと保護者が「受ける」「受けない」と言っても子どもがたくさん居る中で、「え、〇〇君だけ受けないの」なんてことになり兼ねませんので、これはやはり学校で行うべきものではないとの考えでおります。よろしいでしょうか。

○佐藤教育長職務代理者 はい。

○教育長（丹野） それでは、次に移ります。2につきましては、前回の委員の皆様から色々貴重なご意見をいただきまして、それを踏まえまして学校教育課が取り組んでいる内容になります。それでは、「2 新型コロナウイルス感染拡大に伴う誹謗中傷の根絶に向けた親子で考える取組について」、事務局よりお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） 7月の教材につきましては、私も目を通しまして一部修正を依頼している箇所もございますが、次回の教育委員会にはこの教材を皆様にお配りできると思っております。この件は、よろしいでしょうか。

（質問等なし）

○教育長（丹野） それでは、「3 令和3年度夏季休業中の空直日について」、事務局よりお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） 昨日、本宮市と大玉村の教育長にお出でいただき、私が安達地区の協議会長をさせていただいておりますので、この原案を示させていただきます、ご同意いただきましたので、3市村で今年は10日間の空直と決定させていただきました。今年は特にお盆の8月16日を休みとしたこと、また前年度も協議いたしました、全国的には夏休み期間中の空直日を増やしておりますので、先生方を少し休ませてあげたいと思っております。二本松の先生方もかなりヘトヘトになっております。コロナも含めて今後も少しずつ空直日を増やして先生方に英気を養っていただければと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。ご質問等、ございますか。

（質問等なし）

○教育長（丹野） 次に移ります。「4 第52回東和ロードレース大会の開催に

ついて」、事務局からお願いします。

(事務局より説明)

○教育長(丹野) 以上説明が終わりました。皆様よろしいでしょうか。

(質問等なし)

○教育長(丹野) 続きまして、「5 大山忠作美術館の指定管理について」、事務局より指定管理の部分に絞って説明をお願いします。

(事務局より説明)

○教育長(丹野) 以上説明が終わりました。皆様よろしいでしょうか。

(質問等なし)

○教育長(丹野) 続きまして、「6 史資料の寄託について」、事務局よりお願いします。

○教育長(丹野) 以上説明が終わりました。皆様よろしいでしょうか。

(質問等なし)

○教育長(丹野) 続きまして、「7 各種コンクール事業の実施について」です。

3事業を例年実施しておりますが、太田委員は初めて出席されることとなりますので、事業の概要説明をお願いします。

(事務局より説明)

○教育長(丹野) 以上説明が終わりました。3事業について、文化課として更により良いものにしようとして例年通りではなく、少しずつ良い方向に変えようとする気持ちで進めていることは、皆様にご理解いただけたかと思いますが、皆様からご意見等ありましたら参考にさせていただきますので、お願いします。

○関奈央子委員 戒石銘顕彰の作文コンクールは、以前も少し申し上げましたが、内容がどうしても同じような感じになってしまうのではないかと考えておりました。先程次回からは、「より自分の考えを表せるような」とご説明されておりましたが、具体的にどのような感じになるのか教えていただければと思います。

○文化課長 ただいま、関奈央子委員からお話がありましたが、「戒石銘の副読本を読んで感想を書かれるものですから、どうしても内容的に偏ってしまうのではないか。」とのご指摘だと思います。そういったことへの反省もありますが、具体的な内容等については今後検討させていただきたいと思います。この戒石銘の精神を顕彰するという基本的なバックボーンは二本松市の中学生であれば持っていることは基本なのだと思っております。バックボーンにしつつも何か、この何かが重要なのですが、これから検討して参りますので、決定しましたら皆様にご報告させていただきますので、その際はよろしくお願いたします。

○関奈央子委員 戒石銘は、どうしても支配する立場から見た戒めということですので、そうではなくて色々な立場の人からの見方等も必要なのではないかと以前から思っておりましたので、よろしくお願いたします。

○**教育長（丹野）** 関奈央子委員のお話はド直球でしたが、今年も一番考えた部分でもあります。県でやっている朝河貫一賞をご存知だと思いますが、早稲田大学の甚野教授とも時々会ってお話をするのですが、朝河貫一がいつの間にか国際交流等の別な方の話題になってしまい、朝河貫一の名前がどこにも出なくなってしまったのです。先日、甚野先生と県の教育長にもこれで良いのでしょうかとお話したのですが、戒石銘についてもご案内のとおり、上に立つ者、あるいは支配者ということだと思いますが、「支配する人々のことを本気で考えなければ天罰が下るからな」という話ですが、中学生はそういった立ち位置に立てないため、どう書いたら良いのか分からない部分があり、私たちにとっても大変痛いところでもあります。ですが、戒石銘の顕彰という二本松ならではのものを外してしまったら、やっている意味が無くなってしまいます。次年度に向けた今後の検討課題でありますので、ぜひとも皆様からもご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

○**関奈央子委員** 新しく作られた副読本を読ませていただきましたが、鉄砲を使った戦術や百姓の目から見た戊辰戦争等色々書かれておりましたので、どのテーマを選んでも良いと言うか、先生方も大変だと思うのですが、もっと広い視点からというのはいかがかなと思ったりしました。

○**教育長（丹野）** 関奈央子委員のお話は、「戒石銘から離れなければ、どうしようもないのではないか。」とも聞こえますが、それも含めて文化課長も非常に心を悩ませておりますので、まずは事務局で考えて、そのうえでまた皆様とお話をさせていただきたいと思っております。ただ、はっきり言えることは、戒石銘そのものは二本松の誇りであり、これについての何かが含まれていなければならないと悩んでいるところです。今後もよろしく願いいたします。

○**関奈央子委員** はい。

○**教育長（丹野）** それでは、次に移ります。「8 コンサートホール自主事業の実施について」、事務局よりお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 以上、説明が終わりました。感染防止対策をしっかりと行っただうえで、実施をしたいとの考えであります。皆様よろしいでしょうか

（質問等なし）

○**教育長（丹野）** 続いて、「9 岩代中学校郷土学習計画について」に移ります。事務局よりお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** ただいま、説明がありました。懸田弘訓先生は元福島県文化財保護審議会委員ということで、とにかく民俗芸能については命を掛けて生涯にわたって取り組んでおられるという部分については、県内における第一人

者であります。しかしながら、懸田先生もお年を召されてきており、私も40年以上のお付き合いになります。これから先あまり表で講演される機会は、そう多くはないのではと思っております。ですので、懸田先生が実際どれだけ来てくださるのかは分かりませんが、テレビも含め新聞も含め、今回の事業を記録することは、結果として懸田先生がこれまで生涯を掛けて取り組んでこられたことを生徒や県民にご理解いただくことにも繋がる大切なことであると考えます。文化課長にも調整には大変苦勞をお掛けしましたが、各方面を繋いでいただくことができましたので、今回これを実施するという事であり、この件につきましては、よろしいでしょうか。

(質問等なし)

○**関健至委員** 少し違う話になりますが、子どもたちのマスク着用について、体育をやる際まだマスクを着用している子どもも多少いるのかと思います。またプールも始まってプール内ではマスク着用はできません。その辺りの対応は、どうなっているのか気になります。

○**教育長(丹野)** 議題からは離れますが、これについて学校教育課長から説明をお願いします

○**学校教育課長** 文部科学省と福島県の指導、指示により、マスクは原則的に授業の中では掛けた方がよいということですので、そのように指導をしております。保護者の判断によっては、無理強いはしておりません。また体育の場合は、激しい運動も伴いますので、マスクを外す、これも保護者の希望により、「どうしてもマスクをさせたい。」という場合には、ある程度考慮しますが、やはり激しい運動の場合、今度は熱中症との関わりも出てきますので、外しての運動となります。熱中症予防、それからコロナ感染予防の両面を考えながら学校の先生方は、子どもたちの安全を守るために指導をしているところであります。

○**教育長(丹野)** この件に関しましては、皆さまから自由なご意見をいただきたいと思っておりますので、非公開で実施する秘密会とすることについてご異議ございませんか。

(異議なし)

○**教育長(丹野)** 異議なしと認め、非公開で実施する秘密会とすることに決しました。

(秘密会)

※新型コロナウイルス感染症予防のためのマスク使用等に関して、意見交換が行われた。

○**教育長(丹野)** それでは、「10 その他」に移ります。先ほどの内容と重複する部分もあるかも知れませんが、学校の観戦チケットの状況について、学校

教育課長から補足はありますでしょうか。

○**学校教育課長** 現在のところオリンピック観戦チケットを申し込んでおられるのが5校であります。その5校につきましてもキャンセルも視野に検討しているとの話も伺っております。

○**教育長（丹野）** 学校教育課へは、福島市からもお話があったと報告を受けたのですが、福島市においては、学校を授業日にして子どもたちのオリンピック観戦を計画しているとのこと。二本松市では、元々学校主催との考えではありませんでしたし、あくまで主催はスポーツ少年団や保護者であり、学校は窓口やボランティアで協力していただける先生の引率対応として、当初からブレずに一線を引いた対応を取っております。よろしいでしょうか。

（質問等なし）

○**教育長（丹野）** 続いて、学校教育課長からの報告になりますが、今後の学校行事関係について説明をお願いします。

○**学校教育課長** まず、主に小学校等の宿泊活動ですが、市内でもコロナ感染者が多く出ました5月は、県から感染症重点対策期間との指示もあり、運動会等も含め宿泊活動等の泊を伴う活動を延期で対応して参りました。ですが、現在は対策を十分に取りながらの教育活動を実施しておりますので、6月下旬からは、宿泊での計画をしていたものを日帰りへの変更や行き先の変更、泊を伴うものにつきましては、期間を秋口に移す等各学校で計画しております。

もう一点、陸上競技大会につきましては、計画では9月15日水曜日になっておりますが、市内校長会長が中心となり予定通り実施する方向で協議を行っております。今後、感染状況を確認しながら、無観客も想定しながら、内容として、リレーは感染の危険性もあるため今回は見送り、その他の種目については、例年通り実施をしたいという方向で計画を立てているところです。

○**教育長（丹野）** 学校教育課長から説明がありましたが、感染状況によって変わってくるとは言え、コロナ禍だからといつまでも駄目だ中止だとのやり方は、教育活動の質は高まりませんので、状況を見ながら半歩でも一歩でも前に進めていくとの気持ちで取り組んでいくとの中身の説明でありました。

続いて、生涯学習課長からオリンピック・パラリンピックの事前合宿について、説明をお願いします。

（事務局より説明）

○**教育長（丹野）** 以上、説明が終わりました。皆様よろしいでしょうか。

（質問等なし）

○**教育長（丹野）** 予定にはありませんでしたが、教育部長から教職員の新型コロナワクチンの優先接種について説明をお願いします。

○**教育部長** 教職員、学校関係者の優先接種についてですが、二本松市では一部

の職種の方について優先接種という考え方を持っておりまして、その中に子どもたちに接する機会のある学校の先生、先生以外の職員の方も含めて教育に携わる方々に優先接種枠を設けて準備をしております。可能な限り、これはあくまでもワクチン接種ですので、本人の希望により接種を行う訳なのですが、夏休み中に2回の接種を終えられるように3つにグループ分けをして、最初のグループが、7月10日に1回目、7月31日に2回目、2つ目のグループが7月28日に1回目、8月18日に2回目の接種、最後の方々が7月29日に1回目、8月19日に2回目の接種となるように準備を進めております。

○**教育長（丹野）** 加えて、市内には3つの県立高等学校がございますが、この教職員についても優先接種の枠に含め、二本松市内に居住している教職員だけではなく、近隣市町村へも働きかけて接種券を早めに発行していただき、二本松市で接種できるようなシステムを県の教育委員会、内堀知事も先週の金曜日に発表していただきましたので、上手に進めていければと考えております。

○**佐藤教育長職務代理者** 学校関係に含まれる人も優先枠に含まれるということでしょうか。

○**教育長（丹野）** そのとおりです。子どもに関係する方々を全部を含めて、遺漏の無いように進めて参ります。よろしいでしょうか。

○**佐藤教育長職務代理者** はい。

○**教育長（丹野）** それでは、以上で「5 教育長報告」を終了いたします。

続いて「6 提出議案」に入ります。まず始めに「報告第5号 専決処分の報告について（二本松市学校給食運営委員会委員の委嘱について）」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

（事務局説明）

○**教育長（丹野）** 以上報告が終わりました。この件について、質疑、ご意見等はございますか。

（質疑等なし）

○**教育長（丹野）** それでは、「報告第5号 専決処分の報告について（二本松市学校給食運営委員会委員の委嘱について）」は、承認いたしました。

次に移ります。「報告第17号 教育委員会関係規則等の制定について（二本松市史跡二本松城跡保存活用計画策定委員会要綱）」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

（事務局説明）

○**教育長（丹野）** 以上、説明が終わりました。二本松市には今まで、二本松城跡整備計画がございました。この整備計画に基づき遺構の調査等を行ってきた訳であります。この整備計画の中にいわゆる遺構復元についても記載されておりましたが、この二本松城跡整備計画は元より文化庁の指導をいただき、許可

をもらった計画ではありませんでしたので、遺構調査についてもその都度文化庁に申請を行い、許可をもらうやり方で進めるほかありませんでした。

元より文化庁では、全体を覆いつくす保存活用計画を策定しなさいと言っており、その策定メンバーには、文化庁の職員や県の文化財課職員も入り、そういった包括的な先を見通した計画を作成さえすれば、今までよりも遥かに遺構調査等を含めて展開が進めやすくなります。ですから、我々からしますと二本松城跡の中でも特に三ノ丸御殿の上段下段を含めた復元ということが強調されて話が進められておりますが、文化庁に言わせると「それ以前に基盤整備をしっかりとしなさい。話は、そこからですよ。」ということですので、これに基づいて、この要綱を作成するという事になった訳であります。

ですから、これから2年間掛けて、専門の委員の先生に入ってください、文化庁の職員の指導をいただきながら、2年後にこの計画が完成すれば、文化庁との協議も含めて進みやすくなるものを作ることです。よろしいでしょうか。なお、この委員につきましては、次回の教育委員会でお諮りできる予定であります。

- 太田委員** 保存活用というのは、どの位の範囲になるのでしょうか。
- 文化課長** これは、あくまでも二本松城跡ということで、史跡の指定範囲となります。いわゆる霞ヶ城と久保町を下った大手門の跡も含まれます。
- 教育長（丹野）** 今の説明ですが、私は少しニュアンスが違うと受け止めました。確かに基本はそうですが、例えば小浜城跡も関連、付随して含まれると認識しております。つまり、二本松城跡は核になりますが、それと関連した遺構とも互いに結びつけて、それをどう学術的に活用していくかとの認識でございましたが、指定範囲の中だけで良いのでしょうか。
- 文化課長** ただいま、教育長からお話がありましたとおり、二本松には二本松城跡以外にも色々な史跡や文化財がございます。結局は二本松全体として包括的に保存する等、最終的にはその様な流れになるかと思えます。またこれとは別に二本松地域の地域保存計画というものがありますので、そちらの方で詳しく検討されることではありますが、おっしゃるとおり二本松城跡の保存計画の策定につきましては、そこから波及、関連する活用方針等も触れて検討されなければならないと思っております。
- 太田委員** 保存、活用がどのような意味なのかもちよっと分からないのですが、例えば、お城山の裏にテニスコートがあります。桜の季節にテニスコート側から本丸を見上げると本当に美しいのですが、そこに弓道場が建ってしまったことを大変残念に思っていました。また始まってしまったことに文句をつける訳ではないのですが、建設中の二本松城文化観光施設ですが、お城山の入口、北小の入口辺りから見るお城山は大変美しくて桜の季節、秋の紅葉も本当に素敵

なのですが、セブンイレブンの駐車場辺りから見ると大変すばらしかった景色にどんどん建物が建って高くなっています。なぜわざわざ景観を乱すものを作るのか、保存と活用のバランスが上手くいっていない感じがしてしまいます。作ってしまったコンクリートの建物は簡単に壊すものではありません。なぜ景観を考えずにこの場所に作ってしまったりするのか、もう少しバランスを考えて計画を立てていただきたいと思いました。

○**教育長（丹野）** 太田委員からのご意見ですが、私も正論だと思います。ただ、保存活用という意味合いを文化課の学芸員からレクチャーを受けましたときに私の考えていた保存活用とは違うのだなと思いました。結局、あくまで二本松城跡という文化財として大変意味のあるものの文化財としての保存と文化財としての活用という意味合いなのだということにして、観光資源としての活用とは全く意味が違うことになるのだということは、目から鱗でありました。

それから、景観の部分であります。保存の範疇でいきますと今太田委員からあったお話の部分、大きな意味を持ってくると思います。ただ、自己矛盾に繋がるかも知れませんが、今市が建設している建物の敷地は、史跡外の部分であります。史跡内であればNGです。私が教育長になる前ではありますが、そこから二本松城跡に入っていくとのアプローチで考えて、きっとこの計画は作られているのだと思います。

ただ、景観という部分に関しては、きっと皆さん感じるころはあると思いますが、その部分もあるからきっと今回の建物も市役所と同じ様にお城っぽい建物で景観を邪魔しないように建設しようとしていることは間違いありません。しかし、そう言っても見え難くなるのではないかと、それなりに色々な方々からのご意見が出てくる可能性はあると思います。二本松城跡の史跡をクローズアップさせようとする付帯施設であることは間違いありませんので、そこはご理解をいただきたいと思います。

○**太田委員** お城山を見ると必ずコンクリートが入ってしまうと文化財としても問題だと思います。でも観光として考えると必要なのかなと思うかもしれませんが、観光としても景観を乱すものがあると写真撮影にしてもあまり気持ちの良いものでもありませんし、そう思うと人は離れて行ってしまいます。弓道場にしてももう少し景観に配慮した建物にしても良かったのではないかと思います。やはり文化財を守るための周辺の施設であることが頭から離れてはいけないうと、とても強く思いました。長い目でみて計画を立てていただきたい、30年後、100年後を想定して慎重に建物だけではなくて街全体をデザインしていただきたいと思います。

○**文化課長** 実際に保存活用計画は、原状の課題をきちんと洗い出して、その解決や方向付けを論じながら作っていくものです。太田委員のおっしゃるとおり、

二本松城跡という史跡であると同時に公園としての活用もあるところですので、それらを総合的に見ながら良い計画を作って参りたいと考えております。

○**教育長（丹野）** ご理解いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。皆様よろしいでしょうか。

（質疑等なし）

○**教育長（丹野）** それでは、「報告第17号 教育委員会関係規則等の制定について（二本松市史跡二本松城跡保存活用計画策定委員会要綱）」につきましては、ご承認いただきました。以上で提出議案は終わりました。

続いて、「7 協議事項」に入ります。

はじめに、「(1) 次期教育委員会の開催日程について」を協議いたします。事務局の説明を求めます。

（事務局説明）

○**教育長（丹野）** それでは、次に、「(2) 今後の日程について」を協議いたします。事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

○**教育長（丹野）** 「第2回二本松市教育委員会・小中学校長会定例会の開催について」ですが、佐藤教育長職務代理者は、毎回のご出席をお願いいたします。また、そのほかの委員の皆様もご都合がつく場合は、事前に教育総務課へご連絡いただけますとお席も準備できますので、よろしく願いいたします。

続きまして、「令和3年度教育委員・教育長研修会のオンライン開催について」事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

○**教育長（丹野）** 説明のとおりですので、よろしく願いします。続いて、「教育委員の研修日程について」、事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

○**教育長（丹野）** コロナ禍においては、判断するまでもう少し時間をいただきたいとのことです。よろしく願いいたします。

「(3) その他」に移ります。皆様から、何かございますでしょうか。

○**関健至委員** 話が少し戻りますが、「2 新型コロナウイルス感染拡大に伴う誹謗中傷の根絶に向けた親子で考える取組について」でワクチンを打ち終わったのか、打ち終わってないのかをテーマに付け加えてはいかがでしょうか。

○**学校教育課長** そちらにつきましても、第2弾を作成中でして、第3弾の内容として、教育委員の皆様からご意見がありましたことをお伝えしながら検討して参りたいと思います。

○**関健至委員** 自分の娘ですが、SNSでワクチンの悪い噂等を色々と見ているようです。その様なメリット、デメリットをちゃんと国から出せば良いと思う

のですが、市でも出せば信頼性が高まり、ワクチン接種を受ける比率も高まるのではないかと思います。SNSはデマも多いですから、子どもたちはデマに流される恐れもありますので、きちんとした知識を与える必要があると思います。

○**教育長（丹野）** 今回の件につきましては、二本松市教育委員会の職員の能力では、とても対応できる内容ではありません。これは、私から県の教育長へお話を進めていくべきと思われます。結局そういう専門的な職員がいない中で、断定的な物言いはできませんので、県の方に早速お伝えし、検討いただくこととさせていただきますが、よろしいでしょうか。

○**関健至委員** よろしく申し上げます。

○**佐藤教育長職務代理者** ニュースで見たのですが、大学生の女の子が「ワクチン接種の副作用で妊娠できなくなるかも知れない。」と真面目に信じてしまっているというのがありました。1つの市や教育委員会でそれを出すことは難しいことだと思います。

○**教育長（丹野）** この件に関しましては、皆さまから自由なご意見をいただきたいと思いますので、非公開で実施する秘密会とすることについてご異議ございませんか。

（異議なし）

○**教育長（丹野）** 異議なしと認め、非公開で実施する秘密会とすることに決しました。

（秘密会）

※新型コロナウイルス感染症に関して、意見交換が行われた。

○**教育長（丹野）** この外に何かございますか

○**太田委員** 昨日ニュースで、オリンピックのホストタウンになる市の子どもたちが、学校で相手の国のことを学んだとやっていたのですが、二本松市ではどのようなことを考えているのでしょうか。

○**教育長（丹野）** 例えば、クウェートですが、メールでやり取りさせていただいておりますが、なかなか二本松市で子どもたちに交流をとすることは難しいと思います。

○**太田委員** 子どもたちの交流は、この様な情勢ですので難しいと思いますが、相手の国を学んで知るためのお勉強を取り入れられたら良いと思います。

○**教育長（丹野）** そのような機会を増やしていくことは、大事なことであると思います。

○**太田委員** 例えば、東日本大震災のときにクウェートから義援金として400億円が贈られてきました。震災の時に世界中から日本に義援金が届いたのですが、1,000億円を超える位であったと思いますが、クウェート1か国で日

本に400億円も送ってくださっていて、それを岩手と宮城と福島で分けたのですが、福島県だけでも155億円届いているのです。それで足りなくてクウェートでは、アクアマリンふくしまの被災状況が酷いと聞くとアクアマリンふくしまを名指しで2億4,000万円送ってくれたのです。とてもありがたいことをしてもらっているのです。カンボジアの恩返し活動ではありませんが、義援金をもらった方は混乱の中におりますので、分からないで感謝も言わずに終わってしまうことも当然かも知れませんが、では何故、クウェートは日本にこれ程の義援金をくれたかという今から約30年前の湾岸戦争があり、日本はクウェートが開放されたときに1兆2,000億円の支援金を送ったのです。その際にクウェートは混乱の中でしたので日本にきちんとした感謝の気持ちを伝えられなかったことをずっと引きずっており、震災を受けて恩返ししなければとなって400億円の義援金になりました。この長期に渡るキャッチボールは凄いなと思いましたが、昨年クウェートの市長が亡くなった際に二本松市役所で半旗を掲げたのですが、これがクウェートのみならずアラブ全体でトップニュースとして扱われたなんてこともありました。陰が目立たないところですが、こんなにも長期のキャッチボールをしていることを市民も知らないと思います。この感謝の気持ちや恩返しの気持ち、心をぜひ子どもたちにも知っていただきたい、そのうえでオリンピックを迎えて、教育に役立てていただきたいと思います。

○**教育長（丹野）** 先日のクウェートとの締結式には、川崎小学校の6年生の子どもたちがオンラインで参加したという事実はあります。デンマークについては、島山辺りでカヌーをしている子どもたちとの交流もあるにはあります。せっかくの機会であります。ですが、ホストタウンの手続きそのものが二本松市が一番遅い時期でありましたので、ある意味準備が十分でないところでスタートしたことは否めない事実であります。太田委員がおっしゃったとおり、この様な機会に他国の文化について子どもたちが知るということは大きな意味があります。学校教育課長もお話を聞いておりますので、この辺につきましても学校に働き掛けていきたいと考えております。

○**学校教育課長** 近々校長会等も予定しておりますので、お話させていただきたいと思います。

○**教育長（丹野）** また市民に対してもという部分もできる限り、所管事項である、ないはありますが、大変大切な内容を含んでいると思いますので、市長部局へもこの内容をお伝えし、検討して参りたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○**太田委員** はい。よろしくお願ひいたします。

○**教育長（丹野）** 以上で、定例会の日程は、全部終了いたしました。

これもちまして、令和3年二本松市教育委員会6月定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

(宣言 午後5時2分)